

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

2 今年度重点事業目標

(1) 権利擁護と意思決定支援

成年後見制度活用の促進、虐待防止の徹底、合理的配慮の推進はもとより、広義の権利擁護といえる自己決定・自己実現を尊重した「その人らしい生活」の提供（いわゆる意思決定支援）に努める。

(2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援

定期的に発達障がい支援の専門職の派遣を受けながら内部検討会を重ね、構造化、応用行動分析等の手法により、行動障がいのある方の不適切行動を軽減したり、課題分析等の手法により、自立を促進する。

イ 身体障がいやフレイル状態の方などへの専門的支援

(ア) 理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、集団体操や歩行訓練の他、個人々に応じた機能訓練（エアロバイク、滑車、振動マシン、レッグプレスなどの運動器具を活用しての筋力・心肺機能の強化や関節可動域の維持・向上など）、生活リハビリ、温熱療法等を実施する。

(イ) 褥瘡予防、誤嚥防止、拘縮改善等のためのポジショニングに努める。

(ウ) ビタミンDを含有する食物は少ないため、毎日ビタミンD食品（干し椎茸に紫外線を照射しパウダー状にしたもの）を提供するとともに、適度な日光浴などを心掛けることで、骨密度の低下を防ぎ、骨折予防に繋げる（ビタミンDには一般的に骨の強化の他、抗ウイルス作用、抗癌作用、動脈硬化予防、便秘解消などの効果も認められている）。

ウ 精神障がい等のある方への専門的支援

統合失調症をはじめとする精神障がいのある方に対し、定期的に精神科医の往診を受け、障がい特性や心理、そしてその人のそのときの接し方等を直接学ぶなど、医療との連携を強めてより適切な支援に繋げる。

エ その他の支援

書道、絵画、造形などのアート活動をとおして、自分なりに表現し、形にしていくことで達成感に繋がったり、「あいサポートアートとっとり展」をはじめとする作品展に出展したり、年に複数回、独自の作品展を開催することで、自分の創った作品が展示される喜びや生きがいに繋げる。

また、音楽療法のほか各種アクティビティ（YouTube体操、カラオケ、スポーツレクリエーション等）やユニット活動（おやつ作り等）をとおして、楽しみのある生活に繋げる。

なお、施設外においても、ユニバーサルスポーツセンター「ノバリア」をはじめとする様々な社会資源を積極的に活用することで、施設の中で生活が完結しないように努める。

(3) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJTの推進

発達障がい支援のスーパーバイザー、医師、言語聴覚士など、各分野の専門職の定期的な派遣を受けて、事例検討会、学習会等を行い、支援の専門性の向上に繋げる。

イ Off-JTの推進

強度行動障害支援者養成研修、サービス管理責任者研修等に積極的に参加する。

ウ SDSの推進

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等の国家資格取得を促す。

エ チューター制度の推進

先輩職員をチューターとして、新任職員に対し、業務、技術、心構え等について指導したり相談にのることで、社会人として福祉人として基本的な姿勢等を身につけさせる。

オ 衛生委員会や産業医との連携を密にするとともに、ラインケア研修・セルフケア研修、認知行動療法研修等を行い、職員のメンタルヘルス（アンガーマネジメント含む）と人材の定着に努める。

(4) 経営改善・基盤の確立

ア 1.7（利用者）：1（サービス提供職員）配置を確保すべく利用者確保を目指す。

イ [目標稼働率：生活介護100%、施設入所支援96%、短期入所13%]